

後期学校評価の結果と前期との比較

平成30年度 後期 学校評価(12月) 結果と分析
三者比較表【肯定的評価の割合】 1「よくそう思う」+ 2「だいたいそう思う」

評価項目			総合評価				児童	前期	保護者	前期	教職員	前期
			後期	前期	後期	前後比較						
確かな学力の育成	1	学習準備(忘れ物ゼロ)	94.8	92.4	A	↑	89.4	89.3	95.1	93.4	100.0	94.4
	2	書く力(考える力)	87.9	86.8	B	↑	87.4	90.7	82.3	80.7	94.1	88.9
	3	説明する力 (書いたものを活かす力)	81.5	79.6	B	↑	74.2	75.8	87.9	85.1	82.4	77.8
	4	「できる」ようになる 授業・学習	94.3	93.3	A	↑	92.6	94.4	96.0	96.5	94.4	88.9
	5	読書習慣	69.8	67.7	C	↑	72.2	78.4	60.7	65.8	76.5	58.8
豊かな心の育成	6	あいさつ	88.3	84.5	B	↑	93.7	94.4	87.9	86.8	83.3	72.2
	7	安心	90.3	93.5	A	↓	87.4	89.3	94.5	96.8	88.9	94.4
	8	思いやり	88.5	87.3	B	↑	84.8	85.7	91.9	92.9	88.9	83.3
	9	自己有用感	83.6	82.3	B	↑	78.5	81.7	89.0	87.4	83.3	77.8
健やかな体の育成	10	柔軟性・投げる力	84	73.9	B	↑	90.3	86.8	81.8	81.6	80.0	53.3
	11	食への感謝	95	94	A	↑	95.7	95.5	89.3	86.5	100.0	100.0
	12	安全(ヘルメット着用)	86.5	84	B	↑	81.1	80.1	84.0	83.6	94.4	88.2

全校 肯定的評価の 回答割合	90	% 以上	A
	80~90	%	B
	80	% 未満	C

H30【後期 学校評価 分析】

「学習準備」…年間を通じて、三者ともに高い評価になっている。個々への粘り強い指導に加え、保護者との連携をより密にした協力が実を結んでいる。しかし、「いつでもできる」と答えた児童は全児童の55.3%である。また、10.6%の児童が忘れ物が多いと回答している。進学・進級までに家庭との連携や個々への働きかけが一層必要である。

「説明する力」…苦手としている児童が多いのが現状である。しかし、「思考力・判断力・表現力」は今、児童に最も求められている大事な力である。学校では、さらに、これらの力が伸びるように、国語科に限らず、授業で説明する、記述するという授業実践を積み上げていく必要がある。

「できるようになる授業・学習」…児童・保護者共に高い評価になっている。多くの児童から日常的な実感を伴った肯定的評価が得られるようになってきた。保護者も児童の姿を通して成長を感じ取っていただいている。今後も「わかる・できるようになる授業」を目指して授業研究をするとともに、日々の授業の中では児童の様子をきめ細かに見取り、必要な支援をしていきたい。

「読書習慣」…総合評価は前期に比べてやや上がってはいるが、児童の評価は下がり、保護者の見方も厳しい。冊数は増えているが、読んでいる実感や家庭での読書習慣が不十分な実態がある。来年度もお家で読書の継続や様々な取組で意欲づけをし、習慣化や家庭につなげていく指導・支援をしていきたい。

「学校が楽しい(安心)」…前期同様、90%以上の児童が学校が楽しいと感じているが、やや下がったのが気になる。友達関係も含む学習や様々な教育活動で満足感や充実感が持て、安心して学校生活が送れるようにしていきたい。

「柔軟性・投げる力」…運動会後から本格的に取り組み始めた結果「スポチャレいしかわ」の効果が少しずつ表れ始め、約10%の大きな伸びが見られた。3学期にはさらに伸びることが期待できる。

「安全(ヘルメットの着用)」…少しではあるが伸びが見られた。かけがえのない命を守るために自転車に乗る時には必ず着用することを習慣づけていきたい。まだ、購入していない児童は買い求めていただきたい。

※前期に比べ、三者平均は総じて向上している。しかし、「あいさつ」「読書習慣」の評価に表れているように、帰宅後や地域では実践に移せない児童が見られる。学校でできるようになっても、日常生活の改善にまでは至っていないのが現状である。「大体できる」ではなく「いつでもできる」児童の育成、学校と地域での姿が重なっていく取組が求められている。